

第16回 危機管理・防災教育科 「トップマネジメントコース」の開催

消防大学校

平成26年7月23日（水）、地方公共団体の首長等を対象として大規模災害発生時における対応能力を習得することを目的に、第16回トップマネジメントコースを東京都新宿区において開催しました。

本講習会は、平成8年から「災害対策活動講習会（危機管理講習会）」として始まり、平成17年から「危機管理・防災教育科・トップマネジメントコース」に名称変更し、より内容を充実させて行っております。今年度も首長をはじめとする地方公共団体における危機管理の責任的立場にある107名が受講しました。

満田誉消防大学校長の開講挨拶の後、元東京経済大学教授の吉井博明氏に「自然災害に対する危機管理～初動対応の成功要件と災害情報～」について、Blog防災・危機管理トレーニング主宰の日野宗門氏に「状況予測型の図上訓練」について、さらに、神戸大学名誉教授で、消防審議会会長の室崎益輝氏に「減災の考え方に基づく大震火災対策のあり方」について、それぞれ講義を行っていただきました。

各講義の内容は以下とおりです。

- ・吉井 博明 氏（元東京経済大学教授）
【危機管理概論：自然災害に対応するトップとしての危機管理対応能力の習得】
過去の多数の災害を例に災害時の情報のコントロール及び災害情報の処理など
- ・日野 宗門 氏（Blog防災・危機管理トレーニング主宰）
【危機管理演習：状況予測型図上訓練を用いた災害被害予測と対応能力の習得】
震度6強程度の地震が発生したとの想定を付与し、地震発生直後から6時間程度の間での初動対応についての検討及び整理
- ・室崎 益輝 氏（神戸大学名誉教授、消防審議会会長）
【防災減災対策：減災の考え方に基づく、大震火災への対応能力の習得】
震災時の火災の被害のリスクや特性、減災のための組織体制作り

受講者からは、「災害発生時の初動の心構え、留意点について認識を得ることができた」、「トップとしてあるべき姿を明確にイメージできた」、「自助・共助・公助、それぞれの果たす役割と責務について、地域住民に理解を得る努力を積極的に取り組むことの重要性を感じた」等の感想が多く示されました。

今後、本講習会の受講者が、その役割を認識しつつリーダーシップを発揮され、各地方公共団体における危機管理体制のなご一層の充実に寄与することを期待します。



第16回トップマネジメントコース（ホテルグランドヒル市ヶ谷）

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712